

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	◎	一般小売店 〔酒〕（経営者）	販売量の動き	8月の売上は好調であった。購買に力強さがみられた。
	◎	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・国内線の航空需要は、夏の繁忙期を迎えたことで観光客や帰省客が増加している。7月の航空便の利用客数はコロナ禍前の水準に回復している。国際線の航空需要は、韓国や台湾からのインバウンド客が好調に推移していること、中国との直行便がようやく増えてきたことから、コロナ禍前の8割強の水準まで回復している。
	◎	観光名所（従業員）	来客数の動き	・単月の来客数は、これまで北海道新幹線の開業効果のあった2016年が過去最高であったが、今年8月の売上、営業利益はいずれも2016年を上回っている。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・8月初旬及び中旬は、毎年恒例のイベントである夏祭りが行われたこともあって、来街者数が増加した。また、夏祭り期間中の花火大会などの効果で、ホテルを利用する来街者も前年と比べて増えた。下旬は、来街者が落ち込んだものの、月全体で見ると、来街者が多くみられ、多くの業種が前年よりも売上を伸ばしたとみられる。
	○	一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・8月の売上は2023年比で123.9%、2022年比で222.1%、2021年比で531.4%、2020年比で529.3%、2019年比で122.3%となっている。
	○	百貨店（販売促進担当）	単価の動き	・円安の影響もあって、インバウンドを中心に購買客数が増加しており、客単価も上がっている。
	○	スーパー（店長）	来客数の動き	・米の販売量が増えていることで売上は良かった。また、売上増加に向けた様々な取組を少し前から行っており、その効果が徐々にみられ始めている。
	○	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・お盆の帰省客と観光客の増加により、来客数が伸びている。特に観光地に立地している店舗は好調であった。
	○	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・インバウンドが回復していることもあって、観光地の店舗を中心に来客数が増加している。
	○	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・例年であれば、お盆の帰省期間が終わると、来客数が急激に減少することになるが、今年はインバウンドを含めた観光客の来店が増加している。特に週末は繁忙期と同様の来客数がみられている。
	○	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・来客数が確実に増えている。
	○	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・同業他社も含めて、取扱額が前年実績を上回っており、客単価も上がっている。宿泊施設やバスなどの手配において、満席との回答が返ってくることも多く、全体的に需要が供給を上回っている状況にある。
	○	美容室（経営者）	お客様の様子	・お盆シーズンということもあって、人の動きが活性化しており、それに伴って当店の来客数も増加している。また、8月に入ってから値上げを行ったところ、多くの客が理解を示しており、安心している。
	○	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・旅客も、車両も好調に推移している。特にインバウンドを含めた個人客の増加が目立っている。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・天候に恵まれたこともあって、前年と比べると、夏のイベントの人出がかなり増えている。店舗の来客数もやや増えている。
□	商店街（代表者）	来客数の動き	・全般的に景況感は上向いていると考えていたが、上半期の景況判断などをみると、インバウンド消費が伸びている一方で、個人消費が若干落ち込んでいる。個人消費が落ち込んでいる要因が分からないため、やや不安である。	

<input type="checkbox"/>	一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・夏休みに入り、家族連れのお客がかなり増えてきた。こうした旅行者は欲しい物は節約せずに買う傾向があるため、売上にもプラスとなっている。周りをみても、人気のある店は常に大行列ができていたり、限定商品などが数時間で売り切れるなど、消費意欲の旺盛な状況がみられる。
<input type="checkbox"/>	スーパー（役員）	来客数の動き	・観光客や帰省客の増加が売上の増加に結び付いている。人の動きは完全にコロナ禍前の状態に戻っている。
<input type="checkbox"/>	スーパー（従業員）	単価の動き	・物価が引き続き上昇傾向にあるため、景気は3か月前と変わらない。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・旅行やイベントの集客が好調なこともあって、観光地の店舗の売上は前年を上回っている。一方、通勤や通学での利用が中心の店舗は、客の来店頻度の低下や買い控えがみられ、苦戦している。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（エリア担当）	来客数の動き	・前年は残暑が厳しく、夏物を買って求める客が多く来店したが、今年は前年ほど暑さが厳しくない分、来客数が前年を下回っている。ただし、前年のような天候であれば、来客数がある程度伸びていたとみられることから、景気は3か月前と変わっていない。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・例年8月は夏枯れの時期ということもあって、来客数が最低限の水準にとどまっており、これまでと同様に厳しい状況にある。新型車があることから、購入に向けた動きはある程度みられるが、店舗間や他社との格差が少なからずみられるなど、全体的な景気はそれほど良くない。
<input type="checkbox"/>	自動車備品販売店（店長）	来客数の動き	・店舗への客足はそれほど変わっていないが、購買客数が前年比90%と落ち込んでいる。
<input type="checkbox"/>	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	単価の動き	・石油製品の価格に変化がみられないことから、景気は変わらない。
<input type="checkbox"/>	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・観光客の増加が追い風となり、売上は悪くない状況にあるものの、地元客が減少傾向にある。じわじわと客単価が下がっており、客層も変わってきていることから、今後に向けての不安もある。一方、仕入れに関しては、コロナ禍の影響で中止されていた全国企業の食品展示会の再開が相次いでいることから、適正価格の食材を探すなどして、支出の見直しを進めたい。また、今夏は例年よりも高温多湿のため、スタッフの疲労蓄積がみられている。9月前半までは暑い日が続くとみられることから、夏バテや夏風邪など、従業員の健康管理に配慮する必要が出てきている。
<input type="checkbox"/>	スナック（経営者）	来客数の動き	・8月は暑さが厳しかったが、来客数の変動は余りみられなかった。
<input type="checkbox"/>	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・宮崎県の地震や南海トラフ地震臨時情報の発表、猛暑や台風の上陸など、旅行敬遠につながる要因が多く、予約の低迷や旅行の取りやめといった動きがみられる。ただし、3か月前も景気が良くなかったことから、下げ止まりという評価になる。
<input type="checkbox"/>	タクシー運転手	来客数の動き	・8月のタクシー1台当たりの売上は前年並みであった。ただし、前年10月以降、乗務員の採用が増えており、前年よりも乗務員が35%増えていることから、会社全体の売上は前年から約35%の増加となった。コロナ禍前の2019年と比較すると、乗務員はまだ約10%少ないものの、会社の売上はほぼ同じ水準まで回復している。
<input type="checkbox"/>	タクシー運転手	来客数の動き	・お盆期間中のタクシー利用やイベント関連のオーダーがやや増加したものの、お盆期間の前後は利用がやや落ち込んだことから、月全体の利用客数は余り変わっていない。
<input type="checkbox"/>	タクシー運転手	来客数の動き	・人の流れは前年並みであり、景気が大きく変わるような動きも見当たらなかった。

□	美容室（経営者）	販売量の動き	・8月の売上はやや減少したが、ここ3か月と比べても、景気が下向いているというほどの落ち込みはみられなかった。
□	住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・建築資材が高止まりしていることから、販売価格が下がる様子はみられない。また、金利の引上げに伴い、住宅ローンの借入額の上限が引き下げられることになるため、住宅取得のマインドが低下している。建築する建物も小ぶりの物件が増えている。
▲	商店街（代表者）	お客様の様子	・客の動きは決して良いものではない。値上げの動きが続いていることから、日々の買物に悩んでいる様子がうかがえる。
▲	百貨店（売場主任）	単価の動き	・物価が上昇していること、以前よりも円高になっていることから、海外富裕層の購買単価が低下している。
▲	スーパー（店長）	来客数の動き	・商品単価が上昇している一方で、来客数及び買上点数が減少している。その結果、売上が減少している。
▲	スーパー（店長）	販売量の動き	・物価上昇の動きが落ち着いてこないことから、景気はやや悪くなっている。
▲	スーパー（店長）	お客様の様子	・客の様子をみると、必要な物しか買っていない。
▲	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・物価高が続いていることから、客の来店頻度が低下している。そのため、足元の買上客数は減少傾向をたどっている。
▲	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・夏の最盛期の売上が前年を下回っている。天候要因以外にも、消費を冷え込ませている要因があることがうかがえる。
▲	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・販売量の動きに停滞感がみられる。食材などの価格上昇やエネルギー価格の高止まりに加えて、観光などに支出がシフトしていることもあって、高額商材の買い控えが感じられる。
▲	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・車両の登録台数は計画に近いところまで持ち直している。受注残があるうちは計画を達成できるとみられるが、車両の生産台数が落ち着き始めていることもあって、先行きは厳しくなることが懸念される。
▲	住関連専門店（役員）	販売量の動き	・3か月前と比べると、売上の前年比が低下していることから、客の購買意欲が鈍化していることがうかがえる。
▲	その他専門店 〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・例年よりも暑い日が続いていることもあって、客足が計算できない状況にある。本来であれば、メーカー各社が秋の値上げを発表していることで、駆け込み需要を期待できるタイミングであるが、期待外れの結果となっている。
▲	その他専門店 〔造花〕（店長）	お客様の様子	・お盆商戦の客の様子をみると、消耗品の購入が多かったものの、売上は2割減となった。お盆後は、例年需要の落ち込む時期であり、購買客が余り多くみられない。
▲	観光型ホテル（経営者）	単価の動き	・国内客については、団体客、個人客のいずれも来客数が伸びておらず、これまで順調に上向いていた客単価も伸びがみられなくなっている。日本銀行の追加利上げ、株価の暴落、物価高が同時に影響したことが要因とみられる。
▲	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・物価高、燃料高、円安が続いていることで当地域の経済も停滞が続いている。そのため、法人の旅行需要が低迷している。
▲	タクシー運転手	販売量の動き	・地域イベントの期間中は、好調な集客がみられていたが、イベント後の人流は今一つ伸びがみられなかった。月全体での景気はやや悪い状況となっている。
▲	通信会社（企画担当）	単価の動き	・通信端末価格が高騰していることで、客の買い控えが一層強まっている。特に中所得者層の落ち込みが顕著である。
▲	美容室（経営者）	単価の動き	・物価上昇がいまだに続いていることがマイナスとなっている。値上げによる利用控えもみられる。
▲	住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・住宅着工数や建売住宅の在庫の動きがいまだに不調であるなど、住宅マーケットの回復傾向がみられない。金利が上昇局面にあることもマイナスである。

	▲	住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームを来訪する客について、購入の意思決定にかかる時間が以前よりも長くなっている。
	×	一般小売店 (経営者)	来客数の動き	・株価が暴落してから、来客数が急激に減っている。当店においては、大きな影響がみられている。
	×	衣料品専門店 (経営者)	それ以外	・円安を背景とした物価高により、客の節約志向が強くなっている。例年よりも暑さの厳しい日が続いていることもマイナスである。この月末の1週間は大型台風の影響でショッピングセンター内の店舗を臨時休業したこともあって、客足が大きく落ち込んでいる。
	×	衣料品専門店 (店長)	来客数の動き	・例年であれば、夏物のバーゲンセールと秋物の新作のどちらかが売れる時期であるが、今年はどちらの商材も買い求める客が極端に減っている。
	×	タクシー運転手	販売量の動き	・夏の地域イベント開催に伴う人出はそれなりにみられたものの、消費力の弱い子供が中心であったことから、地域経済が活発になるような動きはみられなかった。
企業 動向 関連	◎	食料品製造業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・8月の販売量は前年比プラス27%であった。3か月前の5月の販売量は前年比プラス18%だったことから、景気は良くなっている。
(北海道)	○	金融業 (従業員)	取引先の様子	・原材料価格上昇の影響は、販売価格への転嫁が進んでいることで縮小傾向にあるが、価格転嫁が十分にできずに収益確保に苦慮している様子もうかがえる。一方、企業の人手不足感は依然として強く、特に有資格者を必要とするような業種では受注機会の損失が生じているなど、業況改善に当たっての妨げとなっている。
	○	司法書士	受注量や販売量の動き	・企業からの不動産登記の受注量がやや増加している。
	○	その他サービス業 [建設機械リース] (営業担当)	受注価格や販売価格の動き	・建材の高騰、人材不足などの影響により、建設業界全体において価格見直しの動きが徐々に進んでいる。
	□	農林水産業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・青果物の端境期に当たるため、景気は変わらない。
	□	食料品製造業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・猛暑の影響もあって、販売量が減少している。特に値上げを行った商品の落ち込みが目立っている。
	□	建設業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・札幌の再開発が目ざされていることもあって、景気が上向きにあるとみられがちだが、再開発は全体の一部である。むしろ設計や施工の人材が集中していることで、他業務の人材不足につながっている面がある。コスト上昇の影響も大きく、計画中止などの動きもみられている。
	□	建設業 (役員)	受注量や販売量の動き	・北海道は今年も猛暑に見舞われているが、今年のような暑さが通常と捉えるようになっており、建設現場での熱中症対策が浸透している。その効果もあって、各工事がフル稼働状態のまま最盛期を迎えており、引き続き順調に推移している。
	□	輸送業 (営業担当)	受注量や販売量の動き	・本州向けの生乳は、消費量が伸びていないことから、相変わらず動きが鈍い。紙パルプは、宮崎県の地震により、生産体制に影響が生じており、減少傾向にある。飼料用のフィッシュミールは、イワシの漁獲が好調なことから、特に九州向けが増加している。農産品関連は、今のところ天候が順調に推移していることから、今後に期待が持てる。これらのことから、全体的な景気は変わらないまま推移している。
	□	輸送業 (支店長)	受注量や販売量の動き	・お盆休みが影響したこともあって、8月の輸送量が想定以上に伸び悩んでいる。また、輸出入貨物の不調も依然として続いている。これらのことから、景気は良い方向には向かっておらず、これまでと変わらない状況にある。
	□	通信業 (営業担当)	取引先の様子	・取引先へのヒアリングから、販売量や販売単価などの動きは引き続きやや良い状況にあり、特段の変化もみられない。当社の状況も同様である。

	□	その他非製造業 [鋼材卸売] (従業員)	受注量や販売量 の動き	・今年当初の見込みよりも売上が増えているが、スポット案件受注の効果とみられる。一方、ベース商材の動きが悪いため、現在の受注状況を考えると、今後の全体的な売上は減ることが懸念される。
	▲	金属製品製造業 (従業員)	受注量や販売量 の動き	・新築住宅着工棟数が前年を下回り続けている。回復する見通しもないことから、景気はやや悪くなっている。
	▲	広告代理店 (従業員)	受注価格や販売 価格の動き	・広告の受注額が横ばい又は減少傾向で推移している。
	▲	司法書士	それ以外	・不動産関連の受注量は特に少ないわけでもなく、例年並みで推移しているものの、物価上昇が続いていることがマイナスとなっている。収入が変わらない一方で、物価上昇の影響で支出が増えており、今後も支出が減るような見通しが立たない状況にある。1度値上げするとなかなか値下げを行わない大企業の体質にも問題がある。
	×	—	—	—
	◎	—	—	—
雇用 関連 (北海道)	○	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・8月はお盆明けから企業の間合せが増えている。また、当社がアプローチしている求人企業からの求人獲得も順調に進んでいる。3か月前と比べると、求人数は1割ほど増えている。
	□	求人情報誌製作 会社 (編集者)	求職者数の動き	・求職者数は3か月前とほぼ横ばいで推移している。ただし、求職者の年代構成をみると、20代から40代にかけての若年層が減少傾向にあり、ミドルやシニアといった層が増加傾向にある。
	□	求人情報誌製作 会社 (編集者)	求職者数の動き	・医療や娯楽業などの一部の業界は求人数を維持しているものの、それ以外の業界の求人数は減少が続いている。一方、求人への反応が良いという声もあちこちから聞こえてくる。
	□	求人情報誌製作 会社 (編集者)	求人数の動き	・街中で観光客を見ない日はないなど、観光客が増えていることがうかがえるが、関連する業種からの求人数は増えていない。全体的な求人数はほぼ横ばいで推移している。
	□	求人情報誌製作 会社 (編集者)	求人数の動き	・人手不足感は強まっているが、求人を出しても応募者が少ないという理由で掲載を見送る企業が多い。
	□	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・当地における7月の有効求人倍率は0.80倍であり、3か月前との比較では0.02ポイント下回った。
	□	職業安定所 (職員)	求職者数の動き	・新規求職申込件数は前年から5.7%の減少、月間有効求職者数は前年から7.3%の減少となった。一方、新規求人数は前年から5.2%の減少、月間有効求人数は前年から6.1%の減少となった。求職者数も求人数もほぼ同様の減少幅で推移していることから、景気は大きく変わっていない。
	□	学校 [大学] (就職担当)	雇用形態の様子	・求人はそれなりにあるものの、学生とのマッチングがうまくいっていない。
	▲	*	*	*
	×	—	—	—